

研究所紹介

株式会社カネボウ化粧品・化粧品研究所 村上 泉子

化粧水や乳液、口紅などの化粧品を生産している小田原工場と同一敷地内に、私が喜怒哀楽の毎日過ごしている研究所があります。化粧品づくりに必要なのは「水」。富士山、丹沢山系を水源とする酒匂川のほとりにあり、その地下水は清らかで理想的な水質を誇っています。そんな豊かな自然環境に囲まれた研究所で行われている研究内容を簡単にご紹介したいと思います。

スキンケア製剤開発研究分野では、最先端の技術を生かして、高機能的な製剤の開発をしています。肌の表面を覆っている角層に含まれている脂質成分は「液晶」という構造を作り、これが肌の水分を逃さない役割を果たしています。皮膚が本来持っているこの液晶構造を応用し、保湿効果に優れた乳液やクリームを開発しております。

また、香りの研究分野では、調香師の研ぎ澄まされた感性や経験技術に基づき魅力ある香りを創っています。さらに様々な角度から香りの働きに関する研究を行っており、香りを嗅ぐことによって得られるリフレッシュ感やリラックス感、ストレス緩和などの効果に関する研究はもちろんのこと、最近では香りの機能性に関する研究に力を入れております。細胞に香り成分を添加すると、メラニンの生成が抑制するものがあり、香り成分の肌に対する直接的な効果を明らかにすることにより商品化に役立てております。

皮膚科学研究分野では、肌を多角的な視点から見つめ直す基礎研究を行っており「美肌」「美白」「アンチエイジング」を三大テーマとした化粧品の新しい付加価値の創造を目指し、いまだ謎の多い皮膚の働きを探ると共に、皮膚に働きかける成分を探索・評価しています。若い方とお年寄りの方の皮膚細胞を使って、老化によって具体的に皮膚のどんな機能が衰えていくのか、またそれらの機能はどうして衰えていくのかといったことを探りアンチエイジング化粧品の開発に役立てています。ここ最近の主なテーマは、メラニン制御メカニズム、コラーゲン・ヒアルロン酸の“量”と“質”に関するもの、皮膚細胞の遺伝子応答などが挙げられます。

最後に私が属している有用性評価研究分野ですが、皮膚生理研究や新しい評価手法の開発を含めて化粧品の効能効果に関する評価研究を行っております。また、専門パネルと呼ばれるヒトの感覚を利用して製品の物性を評価し使い心地の評価も行っております。機器測定による評価と官能評価によるトータルな評価研究によって新製品の開発に役立てています。

以上、たいへん雑駁な紹介になってしまいました。東海道新幹線にお乗りの際は、小田原駅の少し東京よりの窓の外を御覧下さい。のんびりとした雰囲気のある工場と研究所が見えるはずですよ。



第23回 日本家政学会被服衛生学部会 夏季セミナー報告

実行委員長 船津美智子

第23回の夏季セミナーを福岡で開催致しました。栢原先生、綿貫先生のお世話で九州大学国際交流プラザの会場を準備することができました。思えば入会してからずっと毎年衛生学部会の夏季セミナーはそれぞれの実行委員の先生方のご配慮でいつも思い出に残るセミナーでした。就職後、初めて参加させていただいたのが広島でのセミナーでした。ご活躍中の先生方を学会で遠くから見るばかりでしたが、このこじんまりとしたセミナーで偉い諸先輩の先生方に声をかけてもらい、若輩の私にも同じ視点で熱心に語られる研究の話に感激したことを覚えています。大変身近に研究会があることを知らされると同時に、暖かいセミナーのもてなし雰囲気はこの会に入ってよかったという誇りを感じさせる部会でした。

今回担当となった時に今までお世話になるばかりであった部会に何かお返ししたいができるだろうかという思いがありながら、一方で実行委員の先生方がしっかりしていられるので何とかなるだろうという生来の楽天性で遅々として進まず、栢原先生、堀先生と会場を見に行き、心配されたお二人の先生方が次々と準備の手配をして下さり、やっと開会を迎えることができました。また、伊藤先生には、テーマ、プログラムについて、平田先生には広報についてなどいろいろとご指導いただきました。この年は台風が次から次で遠方より博多までおいでいただくことに心配いたしましたでしたが、どうにか台風もなく無事開催できました。

今回の「ストレスと今求められている衣服」のテーマの下に、ホスピスの講演もいただきました。一見関係ないような講演を入れることについて実行委員の先生方のご意見を伺いましたところ、これからの被服の研究でどういことができるか各先生方にお考えいただければいいのではということで実現いたしました。講演の中でウェディングドレスの美しさが若い人に生きる力を与えたこと、被服はいつも夢と希望、力を与えていることをあらためて考えさせられました。また、懇親会では博多弁の落語の立川笑志さんをお招きしましたが、皆さん1日の疲れを忘れるような笑いの渦でした。黒の羽織に博多帯をきりっと締めた談笑さんはなんとも粋で、終了後、早速写真取ったり、談笑したり、触ったり？(着物にです)して楽しいひとときでした。先生方はパワーに溢れ、2日目は1日目に劣らず熱心なご討議をいただきました。このパワーが次の世代に受け継がれるように若い方の実践の場の提供が一番大切かと思います。かつて私達が諸先輩の先生方と交流することで、セミナーの良さを体感したように若い方にもわかってもらえたらと願っていましたが、極めて少数の方からのお問い合わせがあっただけでした。被服教育では今後の若い方の育成が難しい状況にあるように思います。そういう中で忌憚なく話し合う先輩の先生方がいらっしゃるということは大変心強く、励みになると思っておりますし、そういう機会提供ができてこの部会ではないかと考えています。ある先生が(林先生ですが)若い人の育成は高校や中学では遅く、小学校の時代から被服への興味を作っていくと言

われてましたが、同感です。それにはどうしたら良いのでしょうか？
堀先生には最後の最後までお世話になりましたことを感謝申し上げます。

プログラム

総合テーマ：「ストレスと今求められている衣服」

8月23日（月）

13：00～13：05 開会の辞 部会長 平田 耕造（神戸女子大学教授）

13：05～14：05 講演1「温熱ストレス評価の国際基準について」
九州大学大学院芸術工学研究院教授 柄原 裕

14：05～15：05 講演2「ストレスは発展の源」
福岡女学院大学大学院教授 野村 勝彦

15：20～16：20 講演3「加圧トレーニングの効果と衣服への応用」
佐田整形外科病院院長 日本医師会認定産業医
佐田 正二郎

16：20～17：20 平成 15・16年度基盤研究B
「異なる季節・地域におけるユニバーサル・ファッション提案のための
被服衛生学的研究」中間報告 鳥取大学教授 伊藤 紀子

18：00～20：00 懇親会

8月24日（火）

9：00～9：20 若手の発表
衣服が自律神経活動に及ぼす影響 文化女子大学 岡本 法子
9：20～9：40 夜間断眠ストレス中の精神タスクに対する脳波活動及び主観的
眠気による高照度光照射の影響 千葉大学 横井 麻里

9：45～10：45 講演4「感性・感動に関する研究の必要性」
九州大学大学院芸術工学研究院教授 綿貫 茂喜

10：45～11：00 休憩

11：00～12：00 講演5「豊かな生 豊かな死 ～ホスピスの現場から～」
特別医療法人栄光会栄光病院副理事長・ホスピス長 下稲葉 康之

12：00～13：00 昼食

13：00～13：45 総会

13：45～14：45 講演6「ケア社会に向かってー健康・ケア・環境の視点からー」
佐賀大学医学部看護学科教授 井上 範江

14：45～15：00 休憩

15：00～16：00 講演7「被服教育の現場からー小・中・高の家庭科よりー」
福岡教育大学助教授 堀 雅子

16：00～16：30 「ネパール紙（ロクタ）で織る衣服」

香蘭女子短期大学 瑠美工房 大塚 瑠美

16：30～17：00 「博多織の現場から」 博多織工業組合理事長 寺嶋 貞夫

17：00～17：05 閉会の辞 副部会長 岩崎 房子（文化女子大学教授）

平成16年度 第23回 被服衛生学部会夏季セミナー

テーマ「ストレスと今求められている衣服」

8月23(月)～24(火) 九州大学国際交流プラザ



ご協力ありがとうございました。